

大学への資源配分と教育研究活動に関する学部長調査

—国立大学版 N=191 人／回収率 43.6%—

- この調査は、大学への基盤的経費が削減され、競争的外部資金（補助金）の重みが増すなか、全国の研究科長・学部長の方々に対して、大学への資源配分と教育研究活動についての実態やご意見を直接お尋ねし、今後の大学経営の改善に寄与することを目的とするものです。
- この調査は、広島大学高等教育研究開発センターが平成 29 年度『日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究(A)』（大学へのファンディングの変化と大学経営管理改革に関する国際比較研究：代表 丸山文裕）を得て行うものです。ご多忙中のところ、大変恐縮でございますが、何卒ご協力をいただきたくお願い申し上げます。なお、回答には 10～15 分程度要します。
- 回答はすべて統計的に処理され、個人についての情報が他の目的で使われることは決してありません。集計結果は、2018 年 5 月頃に下記のウェブサイトに掲載する予定です。
- **回答は 2 月 28 日までに**、同封の返信用封筒（切手不要）にてご返送ください（3 月 1 日以降も受け付けています）。

広島大学高等教育研究開発センター

<http://rihe.hiroshima-u.ac.jp/>

2018 年 1 月

本件の問い合わせ先：藤村正司 mfujimura@hiroshima-u.ac.jp (082-424-6237)

1. 勤務先の大学・学部についてお聞きします。

問 1. 貴大学の学部数、貴学部の入学定員、専任教員数、任期付き教員の割合についてお答え下さい。

① 学部数 (〇は一つ)	②学部入学定員(〇は一つ)	③専任教員数 (〇は一つ)	④任期付き教員の割合
1学部 6%	150人未満 23%	20名未満 0%	0% 14%
2学部 3%	150～250人未満 39%	20～50名未満 14%	10%未満 42%
3学部 2%	250～500人未満 21%	50～100名未満 45%	10～10%未満 22%
4学部 8%	500人以上 17%	100～150名未満 15%	20～30%未満 9%
5学部 10%		150名以上 26%	30%以上 13%
6～9学部 39%			
10学部以上 32%			

問 2. ご自身は、以下の点で勤務大学の現状をどのように評価されますか。また、今後の方向性について、お答え下さい。

a～e.まで〇は一つずつ	現状			今後の方向性			
	十分機能している	ある程度	機能していない	重視する	ある程度重視	重視しない	分からない
a. 世界的・全国的な教育研究拠点	19%	65%	16%	47%	46%	5%	2%
b. 高度専門職業人の養成として	42%	53%	5%	68%	29%	2%	1%
c. 幅広い職業人養成として	38%	56%	5%	44%	46%	8%	2%
d. 地域の中核的拠点として	56%	40%	4%	74%	22%	4%	0%
e. 特定の専門分野の人材養成として	45%	49%	6%	56%	35%	6%	3%

問3-1. 貴学部の改組・再編の状況についてお伺いします。過去5年に改組・再編、あるいは現在構想中の有無をお答え下さい。

過去5年に改組・再編した ／現在、構想中である	いいえ 31%	はい 69%
----------------------------	---------	--------

問3-2. 問3-1で、「2. はい」と回答された方にお聞きします(「1. いいえ」の方は、問4に進んで下さい)。改組・再編は、以下の事柄からどの程度影響を受けているとお考えですか。○は一つずつ。

a~e. まで○は一つずつ	かなり影響 がある	やや影響 がある	あまり影響 がない	全く影響 がない	分から ない
a. 新規需要(マーケット)の開拓	29%	39%	24%	7%	1%
b. 国の政策への対応	53%	39%	6%	1%	1%
c. 自治体の政策・地域課題への対応	24%	43%	25%	6%	2%
d. 組織のコスト管理の必要性	27%	33%	33%	6%	1%
e. 志願者の減	12%	24%	31%	31%	2%

問4-1. およそ10年前と比べて、教職員スタッフや授業コマ数どのように変わりましたか。また、将来の見込みについて、お答え下さい。

a~g. まで○は一つずつ	(1) 10年前と比べて				(2) 将来の見込み			
	増加 した	変わら ない	減少 した	分から ない	増加 する	現状 維持	減少 する	分から ない
a. 専任教員の人数	7%	11%	81%	1%	4%	12%	76%	7%
b. 任期付き教員の人数	64%	30%	5%	1%	43%	29%	7%	21%
c. 非常勤講師の人数	27%	29%	41%	3%	20%	26%	42%	12%
d. 事務系職員の人数	6%	18%	74%	2%	1%	26%	55%	18%
e. 非常勤職員の人数	60%	21%	16%	3%	29%	26%	23%	22%
f. TA・RAなどの支援員	37%	44%	17%	2%	13%	51%	16%	20%
g. 授業コマ数	50%	38%	11%	1%	32%	39%	15%	14%

問4-2. 教員の採用人事について今後教員補充が望めない場合、どのような方法をお考えですか。

a~d. まで○は一つずつ	とても そう思う	そう思う	あまり 思わない	全く 思わない	分から ない
a. 非常勤をあてがいたい	20%	52%	25%	2%	1%
b. 外部資金を財源に専任教員を雇用したい	25%	36%	33%	4%	2%
c. 退職教員を再雇用したい	15%	42%	29%	11%	3%
d. その他(具体的に: 科目数を削減、組織再編で対応、重要分野に後任採用を集中、新採用時に担当科目数を増やす クロス・アポイント、学内外の協力で単位互換)					

2. ガバナンスについてお聞きします。

問5-1. 教授会（研究科教授会も含む）に要する時間は、平均でどの程度ですか。○は一つ。

時間	9%	42%	40%	7%	2%
	1時間未満	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4時間以上

問5-2 およそ10年前に比して教授会の時間と報告・審議事項の割合はどのように変化しましたか。

a.時間の増減	1%	9%	40%	29%	19%	2%
	かなり長くなった	やや長くなった	あまり変わらない	やや短くなった	かなり短くなった	分からない
b.報告事項の割合	9%	28%	35%	15%	10%	3%
	かなり増えた	やや増えた	あまり変わらない	やや減った	かなり減った	分からない
c.審議事項の割合	4%	21%	39%	24%	9%	3%
	かなり増えた	やや増えた	あまり変わらない	やや減った	かなり減った	分からない

問6-1 以下の事柄は、(1)約10年前と比べてどのように変化したと思いますか。(2)将来の見込みはどうですか。

	(1) 10年前と比べて						(2) 将来の見込み				
	かなり大きくなった	大きくなくなった	変わらない	低下した	かなり低下した	一概に言えない	大きくなる	変わらない	低下する	一概に言えない	
(a, b. ○は一つずつ)											
a. 全学の意思決定に対する 学長 の影響力	37	57	4	0	0	2	75	14	10	1	
b. 学部の意思決定に対する 学部長 の役割	4	25	44	19	5	3	18	53	17	12	

<国公立大学の学部長のみお答え下さい> (c～e.まで○は一つずつ)

c. 全学の意思決定に対する 経営協議会 の影響力	7	40	43	1	1	8	40	40	0	20
d. // 教育研究評議会 の影響力	3	14	42	31	8	2	11	49	29	11
e. // 副学長（担当理事） の影響力	10	60	23	2	1	4	48	33	4	15

問 6-2. 国公立大学の学部長にお伺いします。以下の事柄は、(1)約 10 年前と比べてどのように変化したと思
いますか。(2)将来の見込みはどうですか。

	(1) 10 年前と比べて						(2) 将来の見込み			
	かなり 増えた	やや 増えた	変わ らない	やや 減った	かなり 減った	分 からない	増 える	変 わ ら ない	減 る	分 か ら ない
(a, b.に○は一つずつ)										
a. 全学の方針について学長による説明会	21	41	25	4	3	6	47	28	4	21
b. // 副学長（担当理事）による説明会	9	48	27	4	2	10	43	28	5	24

問 7. 貴学部では、以下の事柄はどの程度喫緊の課題であるとお考えですか。○は一つずつ。

a~h. まで○は一つずつ	極めて 重要	重要	あまり 重要でない	全く重要 ではない	該当しな い
a. 教員の後任補充	76%	23%	1%	0%	0%
b. 教員の昇任	43%	51%	6%	0%	0%
c. 志願者の拡大	44%	44%	10%	1%	1%
d. 大学院博士課程の定員充足	44%	24%	8%	0%	24%
e. 学部運営全般をサポートする教員ス タッフが少ないこと	36%	51%	10%	0%	3%
f. 学部運営全般をサポートする事務ス タッフが少ないこと	40%	52%	8%	0%	0%
g. 教員の研究に当てる時間の確保	67%	32%	1%	0%	0%
h. 大学改革に対する教員の危機意識が 弱いこと	25%	52%	18%	1%	4%

問 8. およそ 10 年前と比べて、職場の環境はどのように変化しましたか。

(a~e.まで○は一つずつ)	とても そう思う	やや そう思う	あまり 思わない	全く 思わない	分 か ら ない
a. 職場の雰囲気良くなった	5%	26%	55%	8%	6%
b. 教職員の心身のトラブルが増えた	26%	50%	20%	0%	4%
c. 学生や院生とのコミュニケーションが減った	13%	39%	40%	5%	3%
d. 学部長が中間管理職になった	53%	33%	6%	2%	6%
e. 教員の離職（定年退職を除く）が増えた	10%	28%	50%	10%	2%

3. ファンディングについてお聞きします。

問9-1. 2017年度について、教員1人当たりの研究費をお答え下さい。○は一つ。

10万円以下	3%	10～20万円	24%	20～30万円	25%	30～40万円	21%
40～50万円	6%	50～60万円	9%	60～70万円	4%	70万円以上	8%

問9-2. 2017年度について、学生1人当たりの教育費をお答え下さい。○は一つ。

5千円以下	6%	5千円～1万円	8%	1万円～1.5万円	15%	1.5万円～2万円	7%
2万円以上	26%	分からない	38%				

問10-1. およそ10年前と比べて、以下の経費はどのように変化しましたか。

a～cまで○は一つずつ	5割以上減少した	1～4割程度減少した	あまり変わらない	1～4割程度増加した	5割以上増加した	分からない
a 教員当たり研究費	34%	51%	10%	1%	0%	4%
b 学生当たり教育費	5%	36%	29%	2%	1%	27%
c. 学部共通経費	13%	58%	13%	7%	0%	9%

問10-2. 問9-1でaに「減少した」と回答された方にお聞きします。現状の個人研究費は、学部の教育研究活動、社会サービス、外部資金獲得の誘因にどの程度影響を与えているとお考えですか。

(a～dまで○は一つずつ)	かなり影響がある	やや影響がある	どちらとも言えない	あまり影響がない	全く影響がない	分からない
a. 研究活動全般に	66%	25%	5%	2%	0%	2%
b. 教育活動全般に	40%	43%	9%	5%	0%	3%
c. 社会サービスに	17%	30%	32%	14%	2%	5%
d. 外部資金獲得の誘因に	45%	35%	12%	5%	0%	3%

問11. 競争的外部資金に関わる以下の意見について、どのようにお考えですか。

(a～f.まで○は一つずつ)	とてもそう思う	ややそう思う	あまり思わない	全く思わない	分からない
a. 学部・研究科の継続的な活動を維持するために、外部資金（間接経費）の獲得は不可欠である。	82%	16%	2%	0%	0%
b. 申請手続きは時間的・精神的負担が大きく、教育・研究上の障害になっている。	35%	48%	15%	1%	1%
c. 「役に立つ」応用研究や短期的テーマに偏る。	30%	54%	12%	2%	2%
d. 競争的外部資金の獲得額が、研究者としての能力と同一視されている。	32%	54%	13%	0%	1%
e. 科研費の新規採択率を上げるために、充足率を抑えるべきである。	2%	18%	51%	12%	17%
f. 科研費を採択しやすい分野や科研費採択能力のある研究者を採用する人事は大学の研究のあり方として問題である。	18%	43%	29%	2%	8%

問 12. 貴学では、競争的資金獲得のための支援強化の取り組みとして、以下のようなことを実施しておられますか。またそれは有効ですか。○は一つずつ。

(a~h まで○は一つずつ)	(1) 実施しているか			(2) 有効か			
	している	していない	分からない	有効ではない	ある程度有効	非常に有効	分からない
a. 科学研究費獲得の事前説明会がある。	97%	2%	1%	2%	75%	15%	8%
b. 科学研究費が不採択の場合でも、評価が高い場合に学内研究費が手当てされる。	64%	34%	2%	9%	61%	15%	15%
c. 科学研究費を申請しない場合、個人研究費が削減される等、ペナルティがある。	31%	67%	2%	33%	33%	4%	30%
d. 研究の終了した科研費研究計画調書を公開する	31%	61%	8%	13%	40%	7%	40%
e. 教授会などで部局別科研費申請率が公表される	90%	10%	0%	16%	66%	5%	13%
f. 学部の科研費申請・採択率が、部局予算に反映される。	34%	64%	2%	29%	36%	8%	27%
g. 学内公募による研究助成がある。	90%	8%	2%	3%	68%	21%	8%
h. リサーチ・アドミニストレーター（URA）が配置されている。	80%	18%	2%	5%	59%	21%	15%

問 13. 貴学部では、外部資金として以下の団体から支援補助を受けていますか。(1)現状と(2)将来の可能性についてお答え下さい。○は一つずつ。

(a~c まで○は一つずつ)	(1) 現状			(2) 将来の可能性		
	得ている	得ていない	分からない	期待できる	あまり期待できない	全く期待できない
a. 地方自治体から (国・私立の学部長のみ)	49%	45%	6%	40%	54%	6%
b. 民間企業から	75%	22%	3%	62%	34%	4%
c. 同窓会から	65%	33%	2%	53%	39%	8%

問 14. 貴学が将来とも発展する上で、以下の事柄はどの程度重要だとお考えですか。○は一つずつ。

(a~h. まで○は一つずつ)	とても重要	やや重要	あまり重要でない	全く重要でない	分からない
a. 教員の教育研究力	95%	5%	0%	0%	0%
b. 大学管理者の経営能力	68%	30%	2%	0%	0%
c. 職員・支援スタッフの能力	81%	18%	1%	0%	0%
d. 公募申請型競争的資金（補助金）の獲得	58%	37%	4%	0%	1%
e. 大学の伝統・組織文化	32%	46%	19%	1%	2%
f. 学生確保	76%	23%	1%	0%	0%
g. 優秀な大学院生の確保	80%	16%	4%	0%	0%
h. 留学生の確保	42%	47%	7%	3%	1%

4. ご自身についてお伺いします。

問 15. 貴大学の設置者についてお聞きます。○は一つ。

設置者	1. 国立	2. 公立	3. 私立
-----	-------	-------	-------

問 16. 所属学部(研究科)は、下のどれに区分されますか。○は一つ。

人文科学・外国語 10	農学・水産 14	情報 2%	その他 2% 下に記入してください ()
社会科学 12	工学 14	芸術・デザイン 0	
教育・教員養成 13	医・歯・薬 18	健康関連 0	
理学 6	看護・福祉 0	生活科学 0	

問 17. 年齢、性別、勤務年数、現職就任後の経過年数について、お答え下さい。○は一つずつ。

a. 年齢	50歳未満 1%	50～54歳 8%	55～59歳 49%	60歳以上 42%
b. 性別	男性 96%	女性 4%		
c. 現在の勤務先での勤務年数	10年未満 3%	10～19年 28%	20～29年 42%	30年以上 27%
d. 現職に就任されてからの経過年数	6ヶ月未満 4%	6ヶ月～1年未満 26%	1年～2年未満 26%	2年以上 35%
	現職を含め2回以上経験している			9%

問 18 貴学での学部長職の選考方法について、該当する番号一つに○をつけて下さい。

1. 学長(総長)による指名 4%	2. 部局内の選挙による候補者の中から学長が指名 54%
3. 選挙以外の推薦などによる候補者の中から学長が指名 3%	4. 部局内の選挙の結果を受けて学長が任命 35%
5. その他 () 4%	

問19. 学部を運営するにあたり、以下の事柄をどの程度重視していますか。

(a.～d. まで○は一つずつ)	とても重視	やや重視	あまり重視していない	全く重視していない	該当しない
a. 将来構想	78%	22%	0%	0%	0%
b. 戦略的重点課題	52%	43%	5%	0%	0%
c. 達成目標	33%	60%	6%	1%	0%
d. 中期計画・中期目標・年度計画の達成	51%	43%	6%	0%	

問 20 学部長としてのマネジメント能力の形成で、以下の経験はどの程度役だっていると思われますか。

a~l. まで〇は一つずつ	とても役だっている	やや役立っている	あまり役立っていない	全く役立っていない	該当しない
a. 副学部長としての経験	46%	25%	2%	1%	26%
b. 学長・学部長補佐としての経験	21%	15%	2%	1%	61%
c. 民間企業・官庁での勤務経験	6%	11%	2%	2%	79%
d. 大学運営に関するセミナー	3%	21%	26%	7%	43%
e. 職員の助言・サポート	59%	38%	2%	0%	1%
f. 学内各種委員会での経験	43%	50%	4%	1%	2%
g. 認証評価の経験	13%	45%	10%	2%	30%
h. GP などプロジェクト経費要求の経験	15%	45%	14%	2%	23%
i. カリキュラムや組織改組の経験	38%	49%	5%	0%	8%
j. ご自身の専門分野	10%	34%	41%	15%	
k. 教職員組合での経験	3%	16%	11%	8%	62%

問 21. 将来、ご自身が学長、副学長(担当理事)に就任要請された場合、どのように対応されますか。

受諾する 8%	やむを得ず受諾する 7%	分からない 53% (状況による)	断る 32%
---------	--------------	----------------------	--------

大学への資源配分のあり方について、ご意見を自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒 (切手不要) にてご返送ください。